

「道徳の時間」学習指導案

「班長になってよかったです」～国語科・学級活動と横断的に扱って～

【第6学年2組 男子14名 女子11名 計25名 指導者 伊藤賀世】

1 日 時

平成19年 6月 22日(金) 第5校時

2 場 所

6年2組教室

3 主題名

『責任を果たす喜び』4-(1)

「身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。」

4 ねらい

清美さんが言った言葉を聞いた「ぼく」が考えていたことについて話し合うを通して、なげやりながらも登校班のことを考えていた「ぼく」の班長としての自覚に気付き、自分の役割を自覚し、主体的に責任を果たしていくとする心情を育てる。

〈キャリア教育の視点から〉

集団生活においていろいろな役割があることやその大切さがわかる。

【将来設計能力(役割把握認識能力)】

思いやりの気持ちをもち、相手の立場に立って行動しようとする。

【人間関係形成能力(コミュニケーション能力)】

5 資料名

『班長になってよかったです』一部改作

出典「ゆたかな心」(光文書院)

6 主題設定の理由

○主題観

高学年の内容項目4-(1)は「身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。」と示されている。

この段階の児童は、家庭や学校及び地域とのかかわりに関するこれまでの指導に基づいて、身近な集団に積極的に参加できるようになることが求められる。学校生活においては、委員会活動、縦割り班、登校班など様々な場面で、最高学年として集団をまとめるという役割を果たさなければいけない立場となっている。班長としての役割をもっている児童とそうでない児童がいるが、集団をまとめていく最高学年という立場に一人一人の役目があり、よりよい人間関係づくりをめざして、その役目を果たしていかなければならないと考える。

しかし、異学年集団をまとめていくことは容易なことではなく、児童は負担に感じること

もある。自分の役割や責任を自覚し集団をまとめていくことは苦労を伴うことであるが、成し遂げた後には達成感や成就感につながるということに気付き、主体的に責任を果たそうとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

【研究テーマとの関連】

最高学年として、集団の中での自分の役割を自覚し責任を果たしていくことは、その集団のよりよい人間関係づくりをめざすことにつながる。全体の様子、動きを見ながら集団一人一人が尊重され生かされなければ、集団としてのまとまりは生まれてこない。リーダーとして、仲間一人一人の気持ちを大切にしながらよりより集団づくりをめざすことが、「思いやりの心」を育てることにつながると考える。

○児童観

本学級の児童は、登校班、クラブ活動、委員会活動、なかよしグループなど、4月から最高学年として様々な場面でリーダーとしての役割を担ってきている。クラスにおいても、修学旅行での班活動の取組みなどを通して、班長としての責任や自覚を高めながら活動をすすめてきた。

事前アンケートでは、次のような結果となった。

事前アンケートより（実施 25名）

1. 6年生になってから、班長（クラス、登校班など）、クラブ長、委員長などの経験がありますか？ はい・・・25人 いいえ・・・0人

2. リーダーとして苦労していること（大変なこと）は、どんなことですか？

- ・みんなが言うことを聞いてくれない。・・・8人
- ・並ぶ時、なかなかそろわない。・・・4人
- ・みんなをまとめることがむずかしい。・・・4人
- ・責任重大、頼られなければいけない。・・・3人

3. リーダーになって「よかった」と思いますか？ はい・・・18人 いいえ・・・7人

【「はい」の理由】

- ・貴重な経験になる。・・・4人
- ・自分の役割が果たせるようになった。・・・3人
- ・みんなと仲良くできる。リーダーにしかできない仕事ができる。人前に出ることに自信がついた。・・・各2人

【「いいえ」の理由】

- ・まとめるのは疲れる（大変）。聞いてくれない人がいる。・・・各3人
- ・先生に呼ばれたり面倒な仕事をしたりしないといけない。・・・1人

4. リーダーにとって大切なことは、どんなことでしょう。

- ・みんなをまとめること。・・・10人
- ・みんなの話を聞くこと。（みんなのことを考える）、注意する。・・・各4人
- ・责任感をもつこと。お手本になること・・・各3人

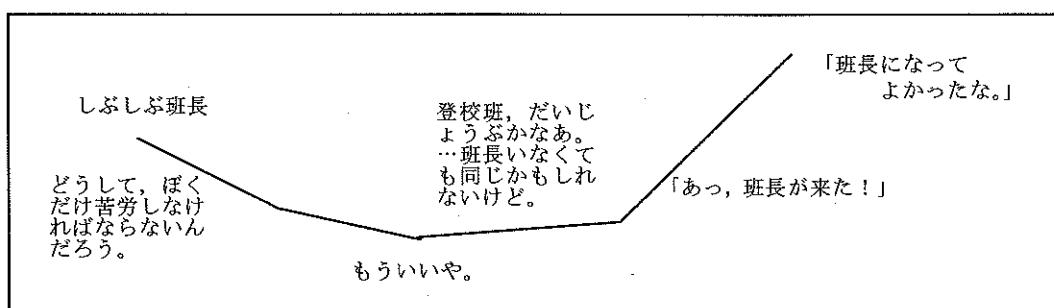
リーダーとしての苦労を感じている場面が多くあることが分かる。しかし、リーダーになつてよかったですと思う児童は多く、苦労をしている反面、リーダーという立場を自分たちにとつてよい経験であると肯定的に捉えている。また、リーダーとして大切なことについては、「みんなをまとめる」、「責任感をもつ」、「お手本になる」など、グループの仲間のことを考えた意見を書いている児童が多く、ふだんから最高学年という立場を意識して生活していることが分かる。

○資料観

本資料は、風邪で学校を休む前と、風邪が治り登校班の集合場所へ行った時の「ぼく」の気持ちや班の様子の変化が描かれている。最高学年として班長にならなければいけない「ぼく」の立場や、登校班の仲間が注意を聞いてくれず、苦労している「ぼく」の様子に共感しやすい資料である。また、資料後半では、風邪が治り登校班の集合場所へ行った時、うれしそうにかけ寄ってきた1年生（健太君）の姿や、副班長清美さんの言葉から、班長として頼りにされていることや班の役に立っていることを感じることができ、役割を果たした後の喜びに気付いたり今後の意欲につなげたりすることができる資料であると考える。

心情曲線による教材分析

(+)



(−)

○ 指導観

6年生は、日頃から学校のために動いたりリーダーとして活動したりする場面が多い。そのたびに児童は、最高学年としての自覚や責任について話し合ったり考えたりしてきている。児童は「6年生の自覚」について、「低学年のお手本になること」、「最高学年として異学年を引っ張っていくこと」と考えている。

また、「最高学年として足跡を残していく責任もある」と考えている。5年生から継続してがんばっている「時間厳守」を含め、学校のため、異学年のために自分たちができることは何かを考えるなど、日常的に「最高学年」という立場を自覚しながら学校生活を送っている。

指導にあたっては、国語科「わたしたちの学校改善計画」と学級活動の(1)「学級や学校の生活の向上に関するここと」における話合い活動及びそれに伴う交流活動と横断的に扱っていく。

展開前段では、自分たちの経験と重ね合わせて考えさせることで、最高学年としての苦労や大変さなどを、しっかりと出させていきたい。

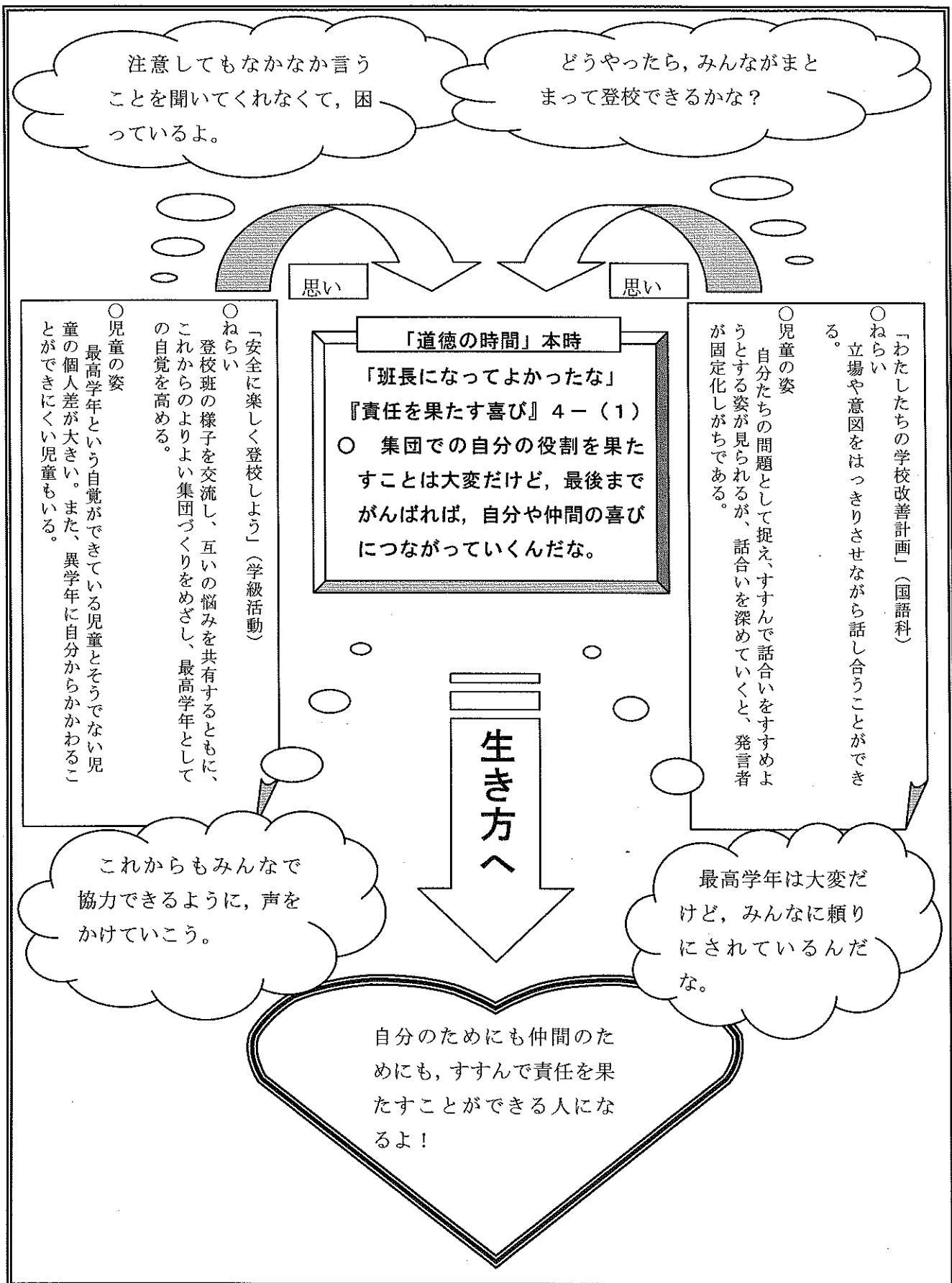
また、展開後段において、5年生がつくった「6年生」というテーマの川柳などを紹介し、異学年の6年生に対する思いに気付くことで、これまでの班長としてのがんばりに対する成就感を味わわせるとともに、これから意欲につなげていく。

【横断的な学習の流れ】

国語科「わたしたちの学校改善計画」では、最高学年として学校のためにできることを考えて提案し、話合いを深める方法を学習する。分かりやすく提案する方法、質問や補足による話合いの深め方を学習した後、実際に自分たちが学校のためにできることについて考え、提案していく。日頃の児童の様子やアンケート結果などを考慮し、提案を「安全に楽しく登校しよう」とする。1回目の話合い活動では登校班の様子を交流し合い、リーダーとしての互いの苦労や悩みなどを共有し合うことができるようになる。そして、その話合いで出された課題を解決するための方法を、さらに話合い活動を通して考えていく。その中で、自分たちの声のかけ方を見直したり、同じグループの5年生との協力や異学年ともっと仲良くなったりすることが大切であるということに気付かせていく。そこから、協力を得るための5年生との相談や、仲良くなるための異学年との交流活動など、今後の活動につなげていくことができるようになる。

そのような取組みを通して、最高学年としての自覚を高めるとともに、学校の中での中心的な存在であることを感じさせたい。そして、本時を通して自分たちが異学年から頼りにされていることや集団の役に立っていることを感じることで、これからも最高学年としてがんばっていこうとする実践力につなげていきたい。

7 横断的な道徳学習構造図



8 学習過程

○準備物 活動の様子が分かる写真 ワークシート 5年生の川柳

段階	学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1 ゲームに楽しく参加する。	○ ジャンケンゲームをしましょう。	○ みんなで楽しくゲームをすることで、お互いの思いを出しやすい雰囲気づくりをする。
展開前段	2 資料前半を聞き、班のみんなが注意を聞いてくれず苦労している「ぼく」の気持ちに気付く。 3 学校を休んだ日の朝、登校班のことについて話合う。	○ 注意をしても聞いてくれず、(どうしてぼくだけ)と思っているぼくは、どんな気持ちでしょう。 ・何で聞いてくれないんだろう。 ・しぶしぶ班長になったのに、もうやめたい。 ○ 学校を休んだ日の朝、登校班のことを思い出した「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。 ・おこる人がいないから、みんな喜んでいるかな。 ・みんなはいつも通り、学校へ行つたかな。 ・注意しても聞かないから、ぼくがいてもいなくてもあんまり関係ないか。	○ 班長の大変さを実感し、やる気をなくしている「ぼく」の気持ちに共感させるために、班の様子を板書で整理し、明確に捉えることができるようとする。 ○ 「ぼく」の班長としての自覚に気付かせるために、班長としての仕事をいい加減にしていた「ぼく」が、なぜみんなのことを思い出したのかを考えさせる。
	4 資料後半を聞き、清美さんの話を聞いた時の「ぼく」の気持ちを話し合う。	○ 清美さんの言葉を聞きながら「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。 ・ぼくは班長としての仕事をしていなかった。はずかしい。 ・班長の大変さを分かってくれたんだな。 ・班長はやっぱり大事だな。 ・最高学年として、これからもっとがんばっていこう。	○ 児童が思いを十分に出せるよう、ワークシートを活用し、意図的指名にも生かす。 ○ 発問後、資料の題名を考えさせることで、「ぼく」の気持ちに共感させ、ねらいとする価値に迫ることができるようとする。 ☆ 役割を自覚し責任を果たすことの大切さに気付かせる。

			【将来設計能力（役割把握 認識能力）】
展 開 後 段	5 異学年の言葉を聞き、学校の中での最高学年としての役割について、考えたことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異学年の言葉を聞いて、どうなことを感じましたか。 ・ 6年生は、頼りにされているんだなと思った。 ・ 6年生がいないと困るんだなと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5年生の川柳などを紹介することで、自分たちがリーダーとして役に立っていることや頼りにされていることを感じ、これから意欲につながるようにする。 ☆ 相手の立場に立って行動しようとする大切さに気付かせる。 <p>【人間関係形成能力（コミュニケーション能力）】</p>
終 末	6 感想を書き、学習のふり返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の感想を書きましょう。 ○ 今日の学習の「ふり返り」をしましょう。 	